

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社DBJ総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (甲信越)	◎	コンビニ（経営者）	・12月はイベントも多く、年末商材もあるため、乗客数、客単価共に良くなるとみている。
	◎	その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・住宅の解体依頼も徐々に入ってくるようになってきている。借地権が設定されていると、住む人がいなくなると更地にして返却しないといけないが、100万円単位のお金が掛かることなので大変である。
	◎	設計事務所（経営者）	・既に受注した業務や今後の傾向を踏まえ、2～3か月先という短期の見通しでは景気は良くなる。
	○	商店街（代表者）	・新しい店がオープンして、客の流れが幾らかにぎやかになったようである。まだ、2～3店は空き店舗があるので、埋まってくれば、かなり客を呼ぶことができるのではないかと期待している。
	○	スーパー（経営者）	・周りの店の営業終了や高齢化に伴い、当店の仕事が増えている。ようやく調子が良くなってきたような気がしている。
	○	その他専門店〔酒〕（店長）	・10月は8月や9月の大型連休等の支出もあり落ち着いてくるとみているが、11月、12月と秋から冬に向かっては当店の販売の中心である日本酒の需要期となる。原料の米も前年のような状況にはないことから、価格上昇も割と落ち着いてくるとみており、2～3か月後は好転していくことを期待している。
	○	高級レストラン（経営者）	・年末年始にかけて売上の上昇に期待を持っている。
	○	一般レストラン（経営者）	・恒例の10月の祭りによる観光客の入込に期待している。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・いまだ堅調な予約状況であり、全体的な雰囲気でも悪い方向に進む気配は見受けられない。しかし、止まらぬ物価高、エネルギーコスト高などが続くことで、年末に向けて、買い控え、消費控えが進みそうな懸念もある。
	○	タクシー（経営者）	・年末に向けて人の動きが多くなるため、やや良くなる。
	○	通信会社（社員）	・現在のペースで新規獲得が継続できれば安定した売上増加が見込めそうである。一方でリソース不足により工事の進捗が遅れているため、早めの改善が必要である。
	○	遊園地（職員）	・好評を博しているコラボ企画や各種イベントを継続的に展開するとともに、情報発信を強化することで、新規顧客及びリピーターの獲得を図る。
	□	商店街（代表者）	・10月からは多くの商品が値上げとなる。客も値上げラッシュに麻ひしてきたのか高くなったとの指摘はなくなってきたが、買上点数は減少している。
	□	一般小売店〔家電〕（経営者）	・電気料金の値上げが発表され、ますます消費者の財布のひもは締められそうである。欲しい物があっても食料品等の生活必需品への支出が優先されるため、家電等の生活用品の動きは制限されてしまいそうである。厳しい年末商戦を予測している。
	□	百貨店（経理担当）	・燃料費の補助終了により、水道光熱費の値上がりで消費が一時的に鈍ると予測している。市内で使える地域共通クーポンの利用促進を図るとともに、冬物衣料が売れるような気温の低下を期待する。
	□	百貨店（営業担当）	・物価高が続いていることや、10月以降も食品の値上げ等があり、ガソリン価格も決して安くはないため、極端に悪くなることはないものの、ほぼこれまでと同じような推移でいくとみている。
	□	百貨店（店長）	・予想より早い秋の訪れで、衣料品や身の回り品に対する購買意欲は悪くない状況が続くが、全体的なところは不透明である。
	□	スーパー（経営者）	・天候が晴れないことには消費者の気持ちも晴れず、困っている。米価の低下くらいしか明るい話題がない。
	□	スーパー（店長）	・値上げ基調は変わらず、生活費を抑える傾向は続く。
	□	スーパー（企画担当）	・好天が続けばという条件付きである。

□	コンビニ（経営者）	・食料品の消費税が来年から1%になるということもあって、消費者は物価が上がるとしてもいろいろなことで迷う面があるとみている。我々もレジ改修を含めていろいろ厳しい。難しい時代に入ってくる。
□	コンビニ（経営者）	・賃金上昇で経費が増える。売上も横ばいの見込みである。クリスマスまで売上増加につながるイベントなどはないため、クリスマスに期待したい。
□	コンビニ（店長）	・客の生活がかなり悪い状況で落ち着いているため、日々の利用が多いコンビニは余り変動しない。
□	コンビニ（総務担当）	・商品の値上げ、気温の低下など売上の良くなる要素は見当たらない。
□	家電量販店（店長）	・来客数が年々減少している。
□	乗用車販売店（経営者）	・自動車税環境性能割廃止と新型モデルの投入効果で、販売は堅調に推移するとみているが、ガソリン価格や電気料金等の高騰により、客の消費活動が影響を受ける懸念がある。
□	スナック（経営者）	・これから忘年会シーズンに入ってくるが、最近は金曜日の接待が減っている。休みをきっちり休みたいのか、週末の接待をできるだけ入れないように動く傾向がみられるため、今後も厳しい状態が続いていく。
□	観光型旅館（経営者）	・これ以上大きな落ち込みはないと想定している。8月までは売上が伸びていたのに、9月の減少分と相殺し、10月以降は変わらず堅調に推移していく見込みである。ただし、新たな台風や災害が発生すると状況はシビアになってくる。
□	都市型ホテル（スタッフ）	・10月は、良かった8～9月よりは若干売上を落とすものの、市内で多くのイベントが開催予定のため、県外からの客の予約が既に入っており、前年同月を10%以上上回っている。
□	都市型ホテル（スタッフ）	・これまでの来客数や単価の推移から、変わらないと考える。全体的に単価は上昇傾向にあり、主要ターミナル駅前のビジネスホテルのため、堅調に推移するとみている。
□	旅行代理店（副支店長）	・秋の繁忙期を前に団体旅行、ツアーの需要が低迷している。個人の動向も鈍く、予約状況が減少していることから景気は良くないままで変わらない。
□	タクシー運転手	・景気や人の動き等、余り良い状態ではないものの、数か月前から、新人が2～3人入社したため、何か月ぶりかで前年を上回る予定である。更にもう1人採用するべく活動している。
□	通信会社（社員）	・先行きの不透明感と物価上昇を考えると変わらない。
□	観光名所（職員）	・問合せや予約は順調だが、当日のフリー客の伸びがない。雨続きによって客足が鈍ることを懸念している。
□	ゴルフ場（副支配人）	・物価上昇が止まらず、金額に対して敏感な平日来場者の節約志向や、土日来場者の価格転嫁の受入れ姿勢は変わらない。
□	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	・気候も良くなり屋外のレジャーが盛んになる時期ではあるが、今年は長雨などいつもと状況が違っている。一般の客は天候に左右される部分もある。団体利用が少ない時期ではあるため、増えてくれればと考えている。
▲	コンビニ（経営者）	・加熱式たばこの増税や、酒税法改正の影響により、やや悪くなる。
▲	乗用車販売店（総務担当）	・中東情勢の不安定性、物価高、金利上昇によりやや悪くなる。
▲	自動車備品販売店（従業員）	・暖冬の予報もあり、客足が伸び悩むことが予想される。
▲	一般レストラン（経営者）	・10月に入ってから物価上昇を見込み、秋のイベントなど人の動きはあるようだが、消費の動きは抑えられている。
▲	スナック（経営者）	・財布のひもが固い状態が続いており、なかなか上向いてこない。周辺で居酒屋の閉店が増えている。新規の開店は見掛けないため、業界全体が落ち込んでいっているようにみえる。
▲	観光型旅館（経営者）	・冬季は道路凍結の影響により、首都圏からの客は減少し、県内客の割合が増えてくる。しかし、従来、地元客が利用していた忘年会や新年会の需要は減少傾向が止まらない。地元客が減った分、インバウンドが増えればよいが、近隣の観光地では中国からの客が多かったため、日中関係の影響からホテルの空室が埋まらず、周辺地域である当地への波及、客の流入は少ない状況である。

	×	コンビニ（経営者）	・人件費、エネルギー価格等の経費増加により、中小企業は良い兆しは全くない。
企業 動向 関連 (甲信越)	◎	金属製品製造業（総務担当）	・半導体の回復により良くなる。
	◎	電気機械器具製造業（経営者）	・現状、受注量は多く継続性もあるため、2～3か月は勢いが衰えそうにない。
	○	食料品製造業（営業統括）	・低価格品の納入が進んできたので、3か月先には動きが出てくると予想される。
	○	電気機械器具製造業（従業員）	・原材料の値上げ等、納期遅延が続いているが、現在受注に対する問合せが多くなっているため、それらを受注できれば、景気は良くなる。
	○	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・金価格の高騰や円安基調の長期化が続くなか、商材価格の高騰に対する抵抗感も徐々に薄れ、現在の価格帯が市場や消費者に受け入れられつつある。直近で開催された海外の宝飾展示会では、日本ブースは好調であったことから、業界全体の高まりを期待している。ただし、全体的な物価高の影響によって宝飾品離れも起きつつあるため、成り行きを注視している。
	□	食料品製造業（総務担当）	・原材料価格が安定するまでは、今のような景気が続く。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	・季節商材の受注は見込まれるが、特注品や店頭商品受注の見込みは薄い。当社新商品の展開に期待感を持っている。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・一部製品の売上で季節的に好調なものもあったが、全体的には物価高の継続により耐久消費財への支出が抑えられる傾向にある。
	□	建設業（経営者）	・全体の景気が良くなるのは、もう少し時間が掛かる。
	□	輸送業（経営者）	・余り変化がないと受け止めている。
	□	金融業（調査担当）	・製造業、非製造業共に一段と押し上げるような環境ではないため、現状程度が続く。
	□	金融業（経営企画担当）	・中東情勢や物価高騰について、先がまだ見通せない。
	▲	*	*
	×	食料品製造業（製造担当）	・原材料価格高騰がいまだ止まらないことから、値上げを検討しているが、スーパーで売上を確保するのは更に難しくなるとみている。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが大変である。
雇用 関連 (甲信越)	◎	—	—
	○	職業安定所（職員）	・月間有効求人倍率が月を追うごとに上昇している。求職者数は月を追うごとに減少しているため、相対的に求人数が増えている。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・社会状況なのか、就職の際の条件に対する求職者の権利主張が続く限り、景気動向も動かない。
	□	職業安定所（職員）	・長期にわたる物価高騰に伴い、より良い雇用条件を求める求職者や、家計補助のため就労を希望する求職者の動きも増加傾向にある点、為替や金利の動向、原材料高や中東情勢などから人手不足を解消するための方策が講じにくいという点を考えると、直ちに好転あるいは悪化するという状況にない。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	・拡大基調の勢いが大変弱く、現場求人にも影響が出てきている。
	▲	—	—
	×	—	—